

## 2009年秋のタカ調査を振り返って

横浜市・都築区 池上 武比古

秋のタカ調査ではお世話になりました。9月下旬から10月10日過ぎまで、ふれあいMLで呼びかけての観察会は11回、事前調査や伊勢崎浄水場入り口、仁ヶ久保林道（伊勢原市）などでは10回以上、多くのふれあいメンバーの協力で楽しく成果ある観察ができました。

「ちょっと時期としては早いな」と思った9月20日のふれあい菜の花台観察会は、数こそ少ないけれど、いろんなタカを見ることができたし、10月4日の権現山観察会は第3次サシバデーの日に当たって展望台では始終歓声が上がリ、サシバ、ハチクマ90羽をカウントしました。

### ○またもや朝令暮改

今秋の渡りサシバは、概数で220羽。昨秋は180羽だから増えたことは増えたのですが、不本意な結果でした(詳しくはふれあいHPのフォーラム欄を参照願います)。これは9月23日、10月1日の第1、2次サシバデーが不発だったためです。

昨年も同様の不調パターンが続いていたときに、大山近辺のはるか上空を80羽が渡ったことから、今秋はベースをそれまでの権現山から、5キロ北西の菜の花台(標高600m、ヤビツ峠への林道途中)に移したのですが、それが裏目に出たようです。

そこで、過ちでは改むるに憚ることなかれ、切り替えの早いのが身上のわれわれは、朝令暮と自嘲しながら再度権現山に移し、やっと第3次サシバデーには間に合いました。

### ○新たな課題続出

ところが、権現山にベースを置き、丹沢山塊との中間・東京電力変電所にもチェックポイントを設定して「これでいいだろう」と思ったのですが、難題が次々と発生。変電所からは南の上空にタカ柱ができていのに、なぜか権現山からは見えない、大山頂上でサシバ30のタカ柱が出来ているのを権現山で確認しているのに、近いはずの変電所からは見えないというわけです。

それに、新たな課題が生じた。これまで権現山の展望台から見て南側では渡りを見なかったのに、観察ではカットしていたのだが、なんと高麗山の手前あたりで、次から次とタカが湧いているのを目のいい仲間が見つけた。同時に伊勢原・仁ヶ久保林道で観察している仲間からは「北から来た群れが南に流れている」という。とすると、八王子からの南下組はいないと思っていたが、いたのか？高麗山手前の群れはそれなのか？それとも鎌倉組の流れが分岐したのか？

白樺峠に行ったとき、豪勢なことにスワロフスキーのスコープを双眼鏡にして見ているつわものがいたが、われわれの装備では点以上には見えない群れを識別するのは無理、かといって無視するわけにはいかない。したがって展望台での観察は全方位型になったのである。

## サシバのすごい地図情報

サシバでシーズン早く帰るのは幼鳥だとか、そういわれてみれば早い時期に見たサシバは初々しく見える。幼鳥は誰に教えられたわけでもないのに、目的地にまっしぐら飛ぶのは不思議なことだが、「鳥たちの旅」(樋口広芳)によれば春には巣立った同じ場所に戻ってくる。そして、その飛行は太陽、磁場を探りながら、ある程度の書き込まれた地形・地図情報にそって飛ぶから、行き帰りの航程は同じではない。だとすれば、タカたちの通り道は一定ではなく、大まかなデザインの枠内で、その日のサーマル(Thermal、スカイスポーツ用語、熱上昇気流のことで、サーマルを利用して上昇したり滞空することをサーマルソアリングという)次第ということになる。

そう考えると、昨年の結果から大山の高いところを航路に想定したのは拙速であり、丹沢南麓を通うサシバは、大山から高麗山までのバンドの中で、あるときは1000m以上の高さで、あるときは低く権現山・大山間の山麓を、あるときはさらに南を飛んでいるということか。

## 多くは赤田方向に収斂

渡りの多くは権現山から大山の山稜の上を高く飛んでくる。皆で北から東方向を双眼鏡で探すのだが、突然展望台の真上や山腹のはるか上空を飛んでいるのを見つけ慌てることが多い。どこかで、サーマルをつかまえて滑空し、この近辺の新たなサーマルに乗って高度を稼ごうというのだろう。

それらの一部は山腹沿いに高松山の方に流れたかもしれないが、確認できる多くは、渋沢丘陵、赤田の南西方向に飛び、時には大きなタカ柱ができる。実際、矢倉岳で観察のまとめ役をしている頼さんのブログでは「丹沢の二の塔、三の塔あたりをバックに飛んできたタカは、赤田に来て、矢倉岳のほうに流れてゆく」という。

## サーマル多発地

あらためて権現山から西をみると、秦野、渋沢とつながった市街地は、チェックメイトCCと渋沢丘陵で出口がふさがれた格好である。それを見て、松本平で絞り上げられた気流が白樺峠に吹き上がるのを連想してしまうのだが、市街地は事実、巨大なサーマル発生源である。

「パラグライダーは一生懸命サーマルを探して渡り飛ぶのですよ、タカと同じ」と言う専門家によると、

丹沢南麓の南向きの斜面は「至るところサーマルだらけ」で、また赤田は絶好のサーマルポイントだという。東名高速道路の上下線 SA のアスファルトがサーマル発生源なのだろう、それらに併せて秦野・渋沢市街地、丹沢南麓、タカにとっては選択に困るほどサーマルポイントが連続しているのかもしれない。

## ○まだまだ入り口でうろうろしています

なぜタカの観察をするのか、私はタカの姿の美しさ、勇壮な飛行に魅せられたからだが、それには自分たちのフィールドでタカを見て、渡りルートを確認しなければいけない。

今から思えば、2006、7年からのずっこけるような観察を経てこの秋で4年が経過した。仲間の熱意で続いたようなものだが、まだまだ入り口に入ったばかりで、ルートを語り、渡り総数を確認できるのには、まだまだ道は遠い。

タカの観察には目が多いほど結果が出ます。この秋と同様に、来春、秋の観察に皆様のご参集を願ってやみません。

以上